

きよさと 組合だより



No.354



清小楽しいキッズスクール農園 第2回目 (6月18日)

小学校食農教育活動	2
JAバンク食農教育応援事業	3
第2回秋まき小麦青空教室	4
きよさと農業塾	4
風害報告	4
資材店舗新築工事安全祈願祭	5
廃プラ回収	5
清里町のうきよう年金友の会 通常総会	6
アカシア部会 清楽園慰問	6
第18回JA清里町女性部	7
スポーツレクリエーション	7
青年部ソフトボール大会	8
清里切麦ギフトセットリニューアル	9
オホーツクJA野球大会	9
第29回JA北海道大会〜パネルディスカッション	10
理事会の経過をお知らせ致します	12
組合員状況	12
JAグループ通信	13
北海道オホーツク総合振興局	13
網走農業改良普及センター 清里支所紹介	14
清里町オリジナル商品 清里切麦を支える企業	14

もくじ

2019年
7
令和元年

小学校食農教育活動

『清小楽しい キッズスクール農園』始動

5月27日、JA清里町集出荷施設裏にある清里町農協青年部の畑にて、今年初の試みとなる食農教育活動『清小楽しいキッズスクール農園』（清里小学校3年生生命名）



「ちゃんと出てくるんだよ〜」

が開催されました。本授業は次世代を担う子供たちが、農作業を通じて農業と食の繋がりを学び、農業の素晴らしさ・大切さを理解してもらうことを目的に、小学校・町・JA・青年部の協賛で実施されることとなりました。年間4回が総合授業の中で予定されており、第1回目は、清里小学校3年生（35名）が農協青年部より馬鈴しょの植付け手順や注意点の説明を受けながら、植付けを行いました。当日は強い日差しの中、1人5個ずつ食用馬鈴しょ「きたあかり」の種いもを手で植付けました。子どもたちは、青年部員やJA職員に植える深さや向きを確認しながら丁寧に作業に取り組んでおり、「元気に育ってほしい」「楽しかった。」「いもの植え方が勉強できてよかった。」「といった感想も聞かれました。会場は楽しそうな声に溢れていました。

作業を終えた後には、集出荷施設の倉庫にて馬鈴しょの栽培・成長についての学習を行い、子ども



青年部に植え方を教えてもらいました

からは、今回植付けた品種以外に何かあるのか、どのように使われるのか（食用なのか、でん粉になるのか）、でん原馬鈴しょの品種名、収穫の予定日、日焼けして緑色になった馬鈴しょはどうするか、一部が緑色になってしまった馬鈴しょは食べられるのかといった質問が発言されました。

最後に、全員で長いも選果場の冷蔵庫で涼み、第1回目の授業は無事終了しました。今後は6月・7月に中間観察会、10月には収穫作業、12月に収穫物を使った給食会が予定されています。



長靴を洗ってから畑に入りましょう！



どこを上にする？

★6月18日、「清小楽しいキッズスクール農園」の第2回目の授業が実施されました。



横並びでスケッチタイム

第2回目では、生徒が5月27日に植付けた馬鈴しょの観察スケッチを行い、各々が自分の植えた馬鈴しょの成長を実感する良い機会となりました。馬鈴しょはほとんどが萌芽してきちんと生育しており、生徒たちも安心した様子でした。

スケッチするにあたり、生徒は種いもの時には知らなかった事に気づいたり、新たに疑問を持ったりとよく馬鈴しょを観察しており、「葉っぱの形が難しいなあ」「この葉っぱはなんで小さいの?」と常



上手に描けました!



真剣なまなざしで描き進めます

に発見に満ちていました。また、馬鈴しょの葉の付き方を正確にスケッチできている生徒や根のはり方を予想して描いている生徒もいました。

当日は雲が多かったものの、雨に当たる事も無く活動することができました。最後には、一人ずつ描いた絵との記念撮影を行い、第2回目の授業は無事終了しました。

JABANK 食農教育応援事業 教材本を清里小学校へ贈呈



6月3日、清里小学校の5年生33名にJABANK食農教育応援事業として、J清里町三上専務より教材本とDVDを贈呈しました。JABANKでは平成20年度から、全国の子どもたちに向けて食農教育等の取組みを実践する「JABANK食農教育応援事業」を展開しております。

とを願い、事業の一環として、補助教材「農業とわたしたちの暮らし」を、全国のJABANKから小学校へと贈呈致しました。学校からは「この教材本は使いやすくとてもありがたい。子どもたちが農業について学ぶ機会が減っているが、大切さを学んでいってほしい。」と喜ばれました。



**きよさと農業塾 第8期生・新人職員
小麦と馬鈴しょの基礎知識を学ぶ**



7月4日、きよさと農業塾学習会が、普及センター笹原氏を講師にお招きして、第8期塾生とJA新人職員参加のもと実施されました。小麦と馬鈴しょについての講義が行われ、栽培の基礎知識や今年度の経過、今時期に発生しやすい病害とその防除方法についてご講話いただきました。当日はJA1階会議室で座学を受けた後、伊藤清市氏の圃場にて小麦と馬鈴しょの生育を視察しました。学習会では、参加者から小麦の追肥や種いもの催芽、今年の風害後の対応等、活発に質問が挙がり、有意義な学習会となりました。

**第2回秋まき小麦青空教室
過繁茂・風害…対処と今後の管理**



5月23日、第2回秋まき小麦青空教室が各集団の代表圃場で開催され、青空のもと、93戸の生産者が参加しました。
普及センター職員を講師として招き、各集団代表者圃場にて止葉期追肥と赤かび病防除についてお話をいただきました。
質疑には、圃場の葉色について、薬剤（抑制剤）散布・防除の時期、風害を受けた圃場の追肥、縞萎縮病について、といったものが挙がり、今後の対策に備えていただきました。



被害直後のてん菜圃場

*被害に遭われた方には、お見舞い申し上げます。

5月18日から21日に発生した強風により、農作物および農業施設に大きな被害をもたらしました。
清里町においては、てん菜、馬鈴しょ、玉ねぎ等で被害総面積がおよそ1,196haにおよびました。特にてん菜は、約900haの大きな被害を受け、緊急対策として、5月27日から6月1日にかけてJA職員、町職員による援農（ビート補植作業）を実施いたしました。

風害報告

数十年に一度の強風被害



約1週間後のてん菜圃場



被害を受けた馬鈴しょ圃場

資材新店舗着工 安全な施工を祈る

6月21日、午前10時より資材店舗新築工事に係る安全祈願祭が執り行われました。5月に事務所内のレイアウトが変わり、現在の資材店舗も一新に向けた工事が始



まっています。現資材事務所の正面（1号倉庫跡）にて工事が進められており、11月中旬の完成を予定しています。

石井組合長からは、「先月は、解体作業中に痛ましい事故が起き、尊い命が失われた。今後、工事が進められる中、安全確保に努めていただきたい。順調に作業が進む事を祈っている。現在の資材事務所は手狭な中で業務を行っており、広いスペースと相談機能が必要に思っている。事務所のレイアウト自体も昭和59年以来の一新であった。元号も令和に変わり、JAとしても新しくスタートとなる。組合員が新たな希望を持って営農に専念できるよう、また、町民にも利用してもらえよう、裾野を広げるような活動をしていきたい。」との挨拶がなされました。

* 工事期間中、組合員の皆様にはご迷惑をおかけする事となりますが、ご理解とご協力のほどよろしくお願ひ致します。



廃プラ回収

今年も廃棄回収が行われました

6月26日、神威麦作センターにて、農業用廃プラスチック等の回収が実施されました。回収結果は、受入戸数151戸（昨年149戸）で、農ビ・農ホリ57,240kg、長いもネット14,840kg、総受入重量は74,130kgを回収することができました。今年は受入戸数・総重量とも昨年実績を上回りました。

当日は晴天で猛暑の中、新入職員も先頭に立って頑張っております。



新人職員も現場で頑張っています！



今年もたくさんの廃プラが集まりました

通常総会



清里町のうきょう年金友の会（石川頼明会長）は7月3日、緑清荘において第29回通常総会を開き、会員34名が出席しました。平成30年度事業報告と収支決算、令和元年度事業計画（案）と収支予算（案）について審議され、いずれも原案の通り承認されました。また、今年度は役員改選が行われ、新役員体制となりました。総会終了後には、引き続き懇親会が開かれ、会員間の親睦を深めました。

●令和元年度の主な行事予定●

- ・ 令和元年7月23日 パークゴルフ大会
- ・ 8月21日 ゲートボール大会
- ・ 令和2年2月3日 マージャン大会
- ・ 3月24日～26日 温泉保養親睦会

●役員が代わりました●

- ◇会 長 居城勝四郎さん
- ◇副会長 中西 安次さん
- ◇副会長 佐藤 均さん
- ◇監 事 森 静夫さん
- ◇監 事 岩瀬 守さん

昔懐かし手作り団子を振舞う

6月18日、アカシヤ部会（桑名早苗部長）は町内の特別養護老人ホーム清楽園で、長いも団子とでん粉団子作りの慰問を行いました。5名の部員と女性部より10名のお手伝いをいただき、計15名で実施。午前中は長いも団子の作り方をアカシヤ部会から女性部員へ、午後からは清楽園ででん粉団子作りをそれぞれ伝授し、入園者の皆

さんに振る舞いました。団子作りの慰問は入園者の皆さんも楽しみにしてくれている行事で、長いも団子の懐かしい味わいとでん粉団子のやさしい甘みに、今回も喜んで食べていただくことができました。次回は11月に慰問を予定しています。



いい香りが部屋中に漂います



おいしくてにっこり



作り方を習得!



チームワークで優勝をつかめ！ 今年も接戦を繰り広げる



パン食い競争



じゃんけんサッカー



今年もたくさんの
部員が参加

JA清里町女性部（前中房枝部長）は6月18日、清里町トレーニングセンターにてスポーツレクリエーションを開催いたしました。今年も多くの女性部員の方々が参加され、第1営農集団の山本香さんの元気いっぱい選手宣誓で晴れやかに幕を開けました。来賓の榎引町長・普及センター・栄田支所長・三上専務には『じゃんけんサッカー』を始め沢山の競技に参加していただき、部員と交流を深めました。

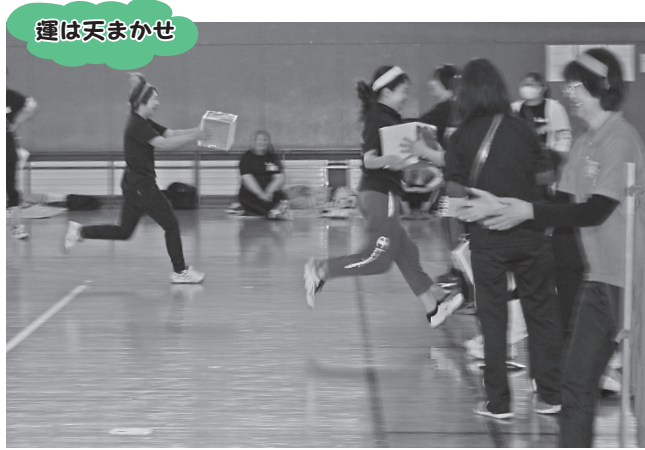
毎年恒例『パン食い競争』では、今年も好きなパンに向かって部員が激走！最初にパンに到達した人の引つ張る衝撃で全てのパンが落下するハプニングもありました。その他『玉入れ』、『運は天まかせ』、『かぼちゃの収穫』、『坊ちゃん・嬢ちゃん』、『何色がお好き』、『早着替えリレー』が行われ、どのチームも集団の違う部員の皆さんと協力しあい、交流が深められ大変盛り上がりしました。

総合結果、今年優勝したのは白チーム（3・4・7集団）、2位赤チーム（6・8集団）、3位青チーム（1・9集団）、4位黄チーム（2・5・10集団）となりました。

個人賞ではMPVに菊池淳子さん（8集団）、珍プレー賞に梅内千夏さん（3集団）吉田望志さん（4集団）が選ばれました。競技終了後、毎年恒例の『じゃがいも踊り』と『清里音頭』を全員で踊り、すべての日程が終了しました。



玉入れ



運は天まかせ



早着替えリレー

青年部
ソフトボール
大会

青空に白球打ち上がる！



優勝 農業委員会チーム
準優勝 REALGOLDチーム
3位 農民連盟チーム

7月14日、清里町農協青年部第48回ソフトボール大会が、清里町町民グラウンドにて開催されました。

辺見青年部長、石井組合長、櫻村審判長の挨拶の後、澤田琢磨さん（第1営農集団）と佐々木秀章さん（第4営農集団）の選手宣誓で幕を開けた今大会は、各支部青年部チームに加え、来賓チームとして営農集団長・ホクレン合同、農業委員会、農民連盟、農協役員チームの計8チーム（125名）が参加しました。

当日は風が強く、グラウンドの土が舞い上がる場面もありましたが、快晴の中たくさん好プレー！珍プレーが見られました。昨年よりも出場チームが減ったものの、とても晴れやかで白熱した試合が繰り広げられました。今年は青年部のREALGOLDチームと農業委員会チームが決勝戦に進み、激闘の末に農業委員会チームが優勝しました。年に一度の恒例行事、今年も青年部と関係機関が交流できる貴重な機会となりました。



やきそば2種類を追加して登場！

清里切麦ギフトセット リニューアル

7月より、清里切麦ギフトが新しくなりました。
是非、お中元やお歳暮・贈答用にお使いください！

* Aコープきよさと店から地方発送（別途料金クール便）も可能。また、のし等も添付可能です。



ここだけの特別価格

Aコープきよさと店 販売価格

①清里切麦詰合せギフト 定番	2,700円（税込）
②清里切麦詰合せギフト 夏	2,400円（税込）
③清里切麦詰合せギフト 冬	2,400円（税込）
④うどん又はひやむぎ単品ギフト（3袋）	1,750円（税込）
⑤うどん又はひやむぎ単品ギフト（6袋）	3,200円（税込）
⑥うどん・ひやむぎ詰合せ（各3袋）	3,200円（税込）

JA オリジナル商品として、今後ともご愛顧くださいますようよろしくお願いいたします。

*** 7月中にホクレングリーンネットショップに掲載予定！**



6月2日、佐呂間町総合グラウンド野球場にてオホーツクJA野球大会の1回戦目が開催され、JAサロマとの試合を行って参りました。序盤は両者とも守りが固く、互いに得点の動きがありませんでしたが、4回裏に当JAが3点を獲得。その後、失点も無く守り抜き、2回戦進出となりました。

第2回戦は7月10日、JAびほろとの試合予定となっております。今期も全員が怪我なく無事にシーズンを終えることができるよう、野球部一同励んで参ります。

第29回 J A北海道大会～パネルディスカッション～

第29回 J A北海道大会（平成30年11月13日）

～パネルディスカッション～

テーマ「多様化する組合員ニーズに応える
新たな協同組合の価値創造」

J A北海道大会当日に開催したパネルディスカッションの内容を2回に分けてご紹介します。（2回目）



宮入 隆氏

北海道大学 教授

J Aと生協連間で連携協定を結んでいます。

地域課題も様々あり、

J Aだけで、生協だけでは、協同組合が連携して新たな課題に対応できるのではという観点で討論したいと思えます。



行友 弥氏

（株）農林中金総合研究所 顧問 特任研究員

東北の被災地では農業や

漁業再生のため土壌スクリーニング（放射能測定）、

漁場再生、農地のがれき処理などで、生協組合員が活躍しました。

漁業では、壊滅した三陸のカキの養殖を、ライブルである広島が稚貝を提供して復活させました。協同組合には、地域や分野を超えて連携する底力があるのです。多様な人々が互いに支えあう協同組合の可能性は、垣根を越えた連携にこそあるのだと思います。

宮入教授 生協側から見たJ Aへの期待、連携して



青竹 豊氏

（一社）日本協同組合連携機構（JCA） 常務理事

協同組合が全国に持つ施設は、36、500と小学校区1つあたり2つある計算になりますが、遊休施設もある。生協は施設が少ないので、一緒に活用できれば助かる。組合員・職員と一緒に取り組めば、よりプラスになることを見て、やっていきたい。

生協連で災害対策も担当したが、災害時、生協とJ Aがそれぞれで被害把握と対応をしています。一緒に助け合いができませんでしょうか。食料などの支援助資をJ Aからも頂ければ、生協のトラックで運べます。今年は、災害が多かったこともあり、連携の大切さを実感しています。

宮入教授 J A施設と生協の流通網を生かすと、もっと力強い繋がりの中で、事業ができると思えます。常呂の漁協とJ Aの連携内容を教えてください。



小野寺 俊幸氏

J A北海道中央会副会長 J Aとこころ 会長理事

山に木を植えることから連携が始まり、ガソリンスタンドや石灰工場をJ Aと漁協で協同して経営しています。

また、漁協者が、ホタテの稚貝を撒く時には、農家組合員の若い人も手伝いに行き、漁業者も、農家が忙しい時には手伝つなど、地域産業を盛り上げようと頑張っています。

地域を守るため、J A北海道厚生連にも入ってもらい、老人ホーム建設費用をJ Aと漁協で出し合うなど、協同組合間で連携してしっかり対応する。

地域から人がいなくなると、店や学校がなくなり、大変な事態になります。一生涯、農業者は土とともに生活でき、漁業者は魚を取れるよう、家族経営を大事にしたい。地域内での協力は大事だと思います。宮入教授 地域ですと生きていく想いがあって初めて、地域で協力できるというお話でした。漁業の労働力が足りない時に、農業者が手伝う連携の話はすごい。多くの人が知って欲しい事例です。

地域課題が多様化する中、協同組合が核となり、連携する形を考える重要性を改めて認識しました。

生協とJ Aの連携で職員の連携・出向などの人的交流の状況を教えてください。

青竹常務 実例は、多くないですが、鹿児島では経済連にコープの中堅職員が、経済連からもコープに出向し、商品の共同開発も進めています。連携を深めるには、人と人の交流が重要だと思います。

協同組合同士で相互に学び合うグループワーク形式の学習会が増えています。それを通じ、困った時に相談できる人間関係ができれば、連携のベースになります。

茨城では、J A、生協を含む41の協同組合・団体で協同組合ネットワークを作っています。無理に進めず、お互いに強みを持ち寄り、ダメ元でも、まずやってみる。「ゆるやか」「あいのり」「やってみる」をキーワードとする活動ですが、このキーワードは、協同組合間連携のヒントになると思います。

第2号議案で、地域の様々な団体・自治体等との連携も掲げています。知らない者同士、考え方も歴史も違うので、色々あると思いますが、違いを認めることが、連携を進めるうえで重要だと思います。

宮入教授 上手くいった事例は紹介されますが、色々な失敗もあるという話で、いっぱい取り組んでみないと成功も出ません。まずは、やってみて、お互いに学び合う。学習会などの緩やかな形で情報交換を通じて、互いの強みや抱える課題を、共有することで連携の種になるという示唆を得ました。

行友顧問 少し話がずれますが、これも食堂の支援をしているJA東京中央の事例をご紹介します。

元々、強い理念があったわけではありません。子ども食堂を運営する市民団体が規格外の野菜を食材として分けて欲しいと、社会福祉協議会を通じて要請してきたのが発端です。JA青年部で協議した結果、規格外ではなく正規品を出すことになり、差額をJAが負担して供給する仕組みができました。

これを機に、JA職員が社会福祉協議会主催の子ども食堂ネットワーク会議に出席するなど、地域との繋がりが強まりました。食堂には畑の写真が貼られ、都市農業の現状を知ってもらう食育の機会にもなっています。参加者を畑に連れて行き、農作業を体験してもらおうという話も出ています。

地域課題に対応しようとして模索を重ねた結果、新たな繋がりができて地域が強くなる。それが望ましい形だと思っています。理念先行ではなく、気がついたら繋がっていた。協同組合間の連携もそれが本来の姿ではないでしょうか。

それぞれの協同組合が互いの得意分野を活かし合い、自然に連携していく。そうなる芽は、たくさんあります。逆に言うと、それだけ地域には様々な課題があるということです。

宮入教授 気がついたら連携していた取り組みがどこんあれば良いと思います。

小野寺副会長 これからの抱負、連携についてお話を聞かせて。時代に即した協同組合を再構築しな

いといけないという想いを持っています。コンサドーシなどの結びつきがあり、大学としては、北海道大学や道教育大とも連携しています。

道教育大の将来先生になる学生に、青年部員の家泊まる農村ホームステイしてもらい。農業の現場・実態を見て頂く。そして、先生になったときには、しっかり子供たちに農業を教えるという取り組み。青年部が学校に出向き、じゃがいもや小麦の作り方を伝える、出前講義を行うなど色々な形の連携が増えていきます。

協同組合の価値をどう創造していくか。本日を原点として始めて頂き、新たな協同組合のあり方を再構築することにも、協同組合間の連携で、大きく発展していくことを願っています。

宮入教授 協同組合は、すでに地域の課題解決に取り組んでいます。交流の中で、互いの価値を見つめ直し、新たな連携が生まれ、それが皆さん自身の活動の見直しにも繋がっていくことを願っています。最後に一言ずつお願いします。

行友顧問 農業や漁業の取材をして感じるのには、生産と消費の現場が遠いことです。農家は消費者のニーズを直接知る機会が少なく、消費者も、農業者の苦労や想いを受け止めることがない。そのすれ違いが農業や漁業を衰退させてきた一因ではないかと思っています。JAや漁協、生協は、まさに生産と消費を繋ぐ団体であり、連携を強めてほしいと思います。

昔の農村共同体は同質な人々の集まりでしたが、今は農業者の規模や作目、経営形態も様々。地域には農家でない住民も大勢います。互いの違いを認め合い、足らざる部分を補い、助け合うことが、これからの社会が目指すべき方向ではないでしょうか。

協同組合は、その要になれる組織です。そのような思いを持って、今後の事業活動を展開していただ

けたらと思います。

青竹常務 第2回議案で、協同組合の理念に基づいて「人づくり・組織づくり・事業づくり・地域づくり」を進めると宣言しており、改めてこれが協同組合だと実感しました。協同組合が皆さんの役に立つ存在になれるよう、皆さんと力を合わせて参りたい。

宮入教授 組合員が多様化する中、組合員になって良かったと思ってもらえるかどうか。生協の事例にもありましたが、組合員の想いを形にする、事業にしていくことが、参加やニーズの多様化に対応する一つの答えになるのではないのでしょうか。協同組合に集まるからできることを、整理して捉え直せば、新たな協同組合の価値創造に繋がると思います。

すでに、皆さんが取り組んでいる内容は、子ども食堂を含めて、SDGsにほとんど当てはまる。地域課題と構成員が多様化する、難しい時代の中で、もう一度整理するきっかけとして頂きたい。

JAは、もっと多様な役割を担っていると発信するためにも、新たな協同組合の価値創造は意味があります。太田原先生が、北海道は、協同組合で地域が成り立つコープアイランドだと言っており、JAだけでなく、様々な連携で発展して行けるのではないのでしょうか。

本日は、ありがとうございました。



大会式典に先立ち、生協組合員から災害支援金1億円の目録贈呈が行われました。

理事会の経過を お知らせ致します



第5回

5月27日

付議事項

- 議案第1号 令和元年度農作物作付面積実測計画について
- 議案第2号 固定資産（土地）の売却処分について
- 議案第3号 資材店舗新築工事における施行方法等について
- 議案第4号 出資減口について
- 議案第5号 令和元年度役員道外視察研修の実施について
- 議案第6号 従業員に対する6月期賞与の暫定支給について

報告事項

- 1. 令和2年度酪農畜産政策・価格対策並びに酪肉近計画見直しに

- 係る組織討議について
- 2. 畑作・青果をめぐる情勢について
- 3. 生産者拠出を伴う砂糖の消費拡大に向けたJAグループ北海道の取り組みについて
- 4. 産地パワーアップ事業の計画変更について
- 5. 小麦萎縮病の全筆圃場調査の報告について
- 6. 畑作構造転換事業の申請状況について
- 7. 農作物作付面積実測要領の一部改正について
- 8. 令和元年度固定資産取得に係る価格交渉結果について
- 9. 令和1肥料年度肥料価格について
- 10. 経営定期点検の実施結果について
- 11. オホーツクJA常務・参事会海外視察研修の参加について
- 12. 澱粉用フレキシブルコンテナ海外製造工場視察の参加について
- 13. 北海道信用事業優績JA海外視察研修の参加について
- 14. JA共済新契約優績JA表彰海外視察研修の参加について
- 15. 青年部ソフトボール大会の開催について

第6回

6月25日

付議事項

- 議案第1号 令和元年度麦作センターの操業計画について
- 議案第2号 令和元年度麦作センターの自主検定員の選任について
- 議案第3号 固定資産の取得について
- 議案第4号 リース取引による固定資産の賃借について
- 議案第5号 平成30年度JA清里町ディスプレイジャー誌の発行について

報告事項

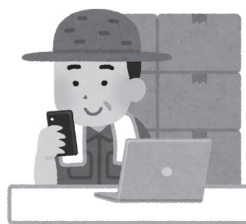
- 1. 令和元年度農作物作付実測の集約について
- 2. 令和元年度Gpに係る夏季植物検診の実施について
- 3. 小麦萎縮病調査結果について
- 4. 澱粉工場加温済み処理土の組合員向け配布について
- 5. 別海ハイオガス発電（株）へのでん粉粕供給実績について
- 6. オホーツク管内系統でん粉工場再編に向けた今後の取り進めについて
- 7. 北海道耕種5団体等組織統合計画について
- 8. コンバイン技術講習会の開催

- 日程について
- 9. 令和元年度コンバイン配車について
- 10. 固定資産の取得について
- 11. 資材店舗新築工事に係る指名競争入札の結果について
- 12. 中斜里区域でん菜振興協議会海外視察研修の参加について
- 13. 組合員の加入・脱退および事業の実施内容の報告について

組合員状況

〈令和元年7月1日現在〉

■組合員数		〈前回報告より〉	
正組合員	(個人)	219名	(1名減)
〃	(法人)	13法人	(1法人増)
准組合員	(個人)	1,315名	(変動なし)
〃	(法人)	0法人	(変動なし)
〃	(団体)	20団体	(変動なし)
		(合計)	1,567



JAグループ通信

JA 北海道厚生連



遠軽厚生病院では、新たな健診（オプション）として、膵臓・胆のうドック及び乳腺エコー検査を開始いたします。受診できる人数については限りがございますが、皆さまの健康のお役に立てるよう今後もニーズに合った検診を提供していきたいと思っております。

詳細は、病院へお問い合わせいただくかホームページ等でご確認ください。



JAやJA関連団体へ100%就職（平成30年度実績）

令和2年度第1回学生募集

大学・短大・専門学校・高校生大歓迎

- 定員60名 ●男女共学 ●1カ年、全寮制
- 大学卒及び見込、短大・専門学校卒及び見込、高校卒及び見込
- 満24歳未満（平成31年4月1日現在）
- 試験日：9月10日・11日
- 願書受付：7月1日～8月13日消印有効
- 学校見学もできます

お問い合わせ・資料請求

JAグループ職員養成校

JAカレッジ

一般財団法人 北海道農業協同組合学校
〒069-0834 江別市文京台東町43-1

☎0120-918-417 JAカレッジ



●北海道オホーツク総合振興局網走農業改良普及センター 清里支所地域第一係（清里町・小清水町担当）紹介●

普及センターでは、畑作三作物を始め、畜産や露地野菜の安定生産を目指し、町やJAなどの関係機関と連携しながら活動を推進しています。さらに、多様な担い手の確保や省力的な生産技術の構築に向けた支援を行なって参りますので、今後ともよろしくお願い致します。

職員紹介

①氏名②清里支所在籍年数
③担当部門

（前列右より）

①橋館 拓 地域第一係長

②1年目 ③園芸

①榮田 耕一 支所長

②3年目 ③畑作

①三上由美枝 主査（地域支援）

②1年目 ③園芸

（後列右より）

①森 高伸 専門普及指導員

②1年目 ③畑作

①成田 雅規 専門主任

②4年目 ③畜産

①元木 咲 普及職員

②2年目 ③畑作

①笹原 勇太 普及指導員

②6年目 ③畑作

①田原 修一 専門主任

②4年目 ③畑作

清里町オリジナル商品 清里切麦を支える企業

津村製麺所

TUMUGU Labo 開店

JA清里町オリジナル商品である「清里切麦」の製麺委託をしている津村製麺所にて、4月より社員食堂「TUMUGU Labo」が開店しました。食堂は「食を通じて地域と交流できる場」と、一般に開放されており、自社製品の生うどんや生ひやむぎメニューを提供しています。

ある麺と味わい豊かな出汁つゆにサクサクのとり天がよくマッチして、大満足の品です。また、めんつゆは「だしソムリエ」の資格を持つ社長夫人が化学調味料や添加物を使わず試行錯誤の末に開発したもの。オホーツク産小麦と塩だけで作られた津村製麺所の生ひやむぎ・生うどんとあわせて、心と体に優しい食事となって提供されます。



住所：北海道北見市豊地26 - 26
TEL：0157 - 33 - 3155
営業時間：10時～16時
(食事提供：11時～14時 ラストオーダー)
定休日：土・日・祝日

発行／清里町農業協同組合
北海道斜里郡清里町羽衣町2番地
TEL 0157-33-3155 FAX 0157-33-3155

アイディー デザイン オフィス id. DESIGN-OFFICE



id. DESIGN-OFFICE (代表 鹿又百合子氏) は、ポスター・パンフレット・名刺といった各種印刷物のデザインや、ステッカー・のぼり・看板等の作成をされています。当JAにおいては、オリジナル商品「清里切麦」の掛け紙デザイン・印刷等、また、ホームページのデザインも手がけていただきました。

デザイン業の他、「オトナ女子のお稽古サロン」のハンドメイドの先生、起業支援の相談員、キャリア支援の講師と、多岐にわたって活動されています。

住所：北海道北見市南町1丁目8 - 29
TEL：0157 - 33 - 4081
Facebook：www.facebook.com/id.DESIGNOFFICE

編集／組合だより編集委員会
印刷／星印刷工業株式会社